

## 第18期 総会

1. 日時 2023年5月30日（火） 午後4時から午後5時

2. 場所 NPO 健康医療開発機構 事務局

3. 議事次第

(1) 開会 ご挨拶 副理事長 清水昭氏

定足数確認

(2) 議事

第1号議案 2022年度活動報告

第2号議案 2022年度決算報告

第3号議案 役員の変更

第4号議案 2023年度活動方針案

第5号議案 2023年度予算案

資料 会員状況

(3) 閉会

議事録署名人 選任

以上

## 第 1 号議案

### 2022年度活動報告

#### I. 概 要

2022年度の活動を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）拡大防止の観点から引き続きオンライン形式が中心となりました。このため、当機構の理念である「人と情報のネットワークづくり」を進めていく上では大きな制約がありましたが、前年度に続き、ライフサイエンスにおける最前線の領域について情報提供ができるよう努めました。

2022年9月4日には、理事長の珠玖洋先生が出張先のロシアで急逝されました。直前までお元気でいらしただけに、誰もが驚きを禁じえませんでした。心からご冥福をお祈りいたします。

珠玖先生は、当機構の設立以来、活動の中心でいらしたばかりでなく、研究分野においては、ヒトがん免疫療法の先駆者の一人として活躍されるとともに、そうした免疫学の基礎研究の成果を臨床に応用する「トランスレーショナル・リサーチ(TR)」を積極的に展開されてきました。

そうした業績を踏まえ、当機構の第16回シンポジウムは、『がん免疫療法の歴史と将来展望 — 珠玖洋先生を偲んで—』と題して、珠玖先生と親交の深かった研究者の方々に演者となっただき、研究者そして教育者としての先生の偉大なる足跡に思いをはせながら開催しました（3月5日・12日）。今回は、会場も借りながら、同時にZOOMでの配信も行う「ハイブリッド形式」で初めて実施しました（於：順天堂大学有山登メモリアルホール）。

また、「健康医療ネットワークセミナー」については、①理事が主体となって企画・運営するセミナー（『理事主導セミナー』）を2回開催しました。これにより、理事の方々の知見や人脈を活用しながら、医療におけるデジタル・テクノロジー分野の新たな動向について、詳しく掘り下げることができました。また、②誰もがオンラインで気軽に参加できる短時間の企画として、昨年度末に引き続き『特別企画 コロナ禍での身体補正/セルフリハビリテーション』を開催したほか、③在宅療養における新しい挑戦の実例の紹介など、健康医療関連分野の情報発信の充実を図りました。

このほか、第17期理事会・総会の採決においては、第16期で変更された定款に基づいて、電磁的（電子メールによる）表決を実施しました。

運営委員会（ステアリング・コミッティ）については、引き続き、オンライン主体で定例的な打ち合わせを月1回程度実施し、セミナーやシンポジウムの企画、準備、資料作成、イベントの告知などについて、積極的に意見交換を行いました。

このように、理事をはじめ、会員や関係者の多大なご協力を得て、活動領域を一段と広げることができましたが、珠玖理事長の知見や存在感の大きさを強く感じる一年間となりました。

## II. 具体的活動

### 1. セミナー等を通じた情報提供とネットワークづくりの支援

#### (1) 健康医療ネットワークセミナー（オンラインセミナー）

今年度は5回開催しましたが、いずれのセミナーも円滑に実施できました。新型コロナ感染症拡大防止の観点から、前年度同様、「オンライン形式」（ZOOM Webinar）で実施することを余儀なくされましたが、視聴者からリアルタイムで質問を受け付けたり、質疑応答の時間を設定したりするなど、参加者との活発なコミュニケーションをはかりながら、「誰にでもわかりやすい」セミナーを目ざしました。

このうち2回については、当機構の理事の専門領域の知見、ネットワークなどを生かしたセミナー（『理事主導セミナー』）として、谷憲三朗理事の主導で、医療分野におけるデジタル・テクノロジーで注目されている若手経営者によるセミナーを、シリーズとして実施しました。

また、特別企画『コロナ禍での身体補正/セルフリハビリテーション』は、誰もが無料で気軽に参加でき、場所を問わない「オンライン」ならではのものとして、昨年度末（初回：2022年3月）に引き続き、2回情報発信しました。

さらに、在宅療養分野における新しい挑戦の実践例を、その施設から中継する形で紹介し、YouTubeでも配信しました。

非会員のセミナー視聴については、イベント管理システムであるPeatixを通じて視聴参加者を受け付けることにより、従来通り、有料（1,000円/回）としました。

回	開催日	題名	講師	視聴人数
60	2022/4/22	【特別企画】 コロナ禍での身体補正/セルフリハビリテーション (全3回) 第2回 『脚の強化、歪みを直す運動』	川越リハビリテーション病院院長、当機構副理事長 清水昭 氏 同病院リハビリテーション地域活性化・職能教育サポート部門統括 マネージャー 阿久澤 直樹氏	43
61	2022/5/27	同上 第3回『バランストレーニング、前庭機能訓練』		40
62	2022/9/16	『在宅療養のゆとりを求めて ～病院と在宅看護の間を埋める新しいケアホームへの挑戦～』 (YouTubeでも配信)	看護師、Filo 株式会社代表、ナーシングケアホーム「結」開設者 道祖尾(さいのお) 綾乃 氏	65

63	2022/12/10	谷憲三朗理事主導シリーズ（全4回） 「医療・ヘルスケアを変革するデジタル・テクノロジー」 第1回【デジタルメディスンの世界と日本の現状】 講演1『デジタルメディスン開発の現状と 規制科学を含めた日本の取り組み』 講演2『デジタル技術を活用した持続可能な医療』	日本製薬工業協会 医薬産業政策 研究所 主任研究員 辻井 惇也 氏  SUSMED, Inc 代表取締役社長 医師 上野 太郎 氏	30
64	2023/2/17	同上 第2回【治験実施や承認に至るまでの道のり】 講演1『AMI株式会社 プロダクト薬事承認に至る までの道のり、これからの展望』 講演2『治療用アプリの社会実装とその課題』	AMI株式会社代表取締役CEO、 医師 小川 晋平 氏  株式会社CureApp代表取締役 CEO、医師 佐竹 晃太 氏	59

## (2) 第16回シンポジウム 『「がん免疫療法の歴史と将来展望」～珠玖洋先生を偲んで～』

2022年9月4日に急逝された珠玖洋理事長のメモリアルとして、珠玖先生の研究者・教育者としての足跡をたどりながら、がん免疫療法について多角的に考察できるプログラムとしました。

日時：2022年3月5日《Part 1》及び12日《Part 2》

場所：順天堂大学有山登メモリアルホール（ZOOMでも同時配信〈ハイブリッド形式〉）

共催：順天堂大学 アトピー疾患研究センター

【Part 1 『がん免疫療法の歩み』】（会場参加者：35名、リモート視聴者：90名）

講演名		講師
	開会の辞	川越リハビリテーション病院・院長、 当機構・副理事長 清水 昭 氏
講演 1	珠玖洋先生を偲んで	名古屋大学大学院医学系研究科・特任教授、 当機構・理事 上田 龍三 氏
講演 2	免疫制御の新戦略	順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター長 奥村 康 氏
講演 3	がん免疫療法の研究開発にかける思い：これまでのご指導の先に目指す未来	山口大学大学院医学系研究科・教授、 当機構・理事 玉田 耕治 氏
講演 4	がんと免疫の相互作用の理解と免疫療法の開発：歴史と未来	国際医療福祉大学医学部・教授、 当機構・理事 河上 裕 氏
総合討論		

ファシリテーター： 清水 昭 氏  
谷 憲三朗 氏(東京大学定量生命科学研究所 ALA先端医療学社会連携部門・  
特任教授、九州大学名誉教授、当機構・理事)  
パネリスト : 上田 龍三 氏、奥村 康 氏、玉田 耕治 氏、河上 裕 氏

珠玖先生の50年およぶがん免疫研究成果が患者さんに提供される日が現実味を帯びてきた現在、ともに免疫学・免疫療法の研究をリードされてきた泰斗であり、珠玖先生と親交の深い研究者の方々に、思い出を交え、それぞれの専門領域について語っていただきました。

【Part 2 『珠玖洋先生と歩んだがん免疫研究の歴史と将来展望』】

(会場参加者：34名、リモート視聴者：83名)

常に真実や本質を知りたいという珠玖先生の科学者としての美学は、多くの門下生ばかりでなく国を越えた共同研究者にも引き継がれています。珠玖門下から巣立った方々は、いまや日本のがん免疫研究の牽引者となり、日本から世界に向けて斬新な情報発信を行い、それぞれの存在価値を高めています。Part 2 では、研究者・教育者としての珠玖先生の業績や人柄に触れながら、がん免疫療法の先端研究についてさまざまな角度から紹介いただきました。

講演名		講 師
講演 1	腫瘍不均一性を克服するがん免疫療法の開発 ～珠玖洋先生と始めたがん免疫療法の未来地図～	長崎大学医学部・教授 池田 裕明 氏
講演 2	複合的がん免疫療法の開発～珠玖洋先生のVISIONとその将来展望～	三重大学大学院医学系研究科・教授 宮原 慶裕 氏
講演 3	活性酸素が拓く生体防御機能	岡山大学学術研究院医歯薬学域免疫学分野・教授 鶴殿 平一郎 氏
講演 4	がん微小環境の免疫抑制克服による新規がん免疫療法の開発 ～珠玖先生から学んだmechanism-oriented TRの実践～	名古屋大学大学院医学系研究科・教授、 国立がん研究センター研究所・分野長 西川 博嘉 氏
総合討論		
ファシリテーター： 上田 龍三 氏 谷 憲三朗 氏 パネリスト : 池田 裕明氏、宮原 慶裕 氏、鶴殿 平一郎 氏、西川 博嘉 氏		
閉会の辞		奥村 康 氏

今回のシンポジウムは、当機構初の試みとして、リアルの会場で講演等を実施しながら、その模様をオンライン（ZOOM Webinar）でも同時配信する「ハイブリッド形式」で行いました。

同時配信については入念に準備を重ねてきたものの、3月5日に開催したPart 1では雑音やマイクの音割れなどの音声トラブルが発生し、オンラインで視聴された方々にはご迷惑をおかけしました。3月12日開催のPart2では、集音・配信方法を抜本的に見直した結果、スムーズな音声環境で配信することができました。

総合討論では、会場参加者やオンライン視聴者から質問やコメントをいただきながら、今後の研究の方向性やあり方について議論を深めることができました。

なお、シンポジウムの概要は、当機構のHPに掲載しています。

シンポジウムは、これまで通り会員・非会員を問わず無料としましたが、参加受付にあたってはイベント管理システムPeatixを活用しました。

広報については、例年通り、当機構のメーリング・リストを活用するとともに、関連交流団体のネットワークからも告知する一方、今回は、特に日本癌学会・日本がん免疫学会の両事務局に各学会メンバーへの案内を依頼しました。

シンポジウムの開催にあたっては、株式会社アインホールディングスから協賛をいただきました。今年度も、チラシには、アインホールディングス社の広告を掲載しました。また、シンポジウム開始前や休憩中には、社名やロゴが会場スクリーンや画面で来場者・視聴者の目に触れるかたちとしました。

### (3) 他組織との連携

協力関係にある『ものづくり生命文明機構』とは、ローカルサミットNEXT IN酒田・庄内（2023年1月21 - 22日）について名義協賛を行い、連携をはかりました。

また、『未病社会の診断技術研究会』を支援するとともに、研究会を共催しました。

Zoom Webinarにて開催

回	開催月日	演 題	講 師	視 聴 者数
42	2022/9/15	脳神経疾患と常在細菌叢	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 特任研究部長 山本 隆 氏	125 名
43	2022/11/16	アルツハイマー病：疾患修飾薬 による治療の新展開	東京大学大学院 医学系研究科 神経病理学 分野 教授／国立精神・神経医療研究センタ ー 神経研究所 所長 岩坪 威 氏	145 名
44	2023/1/19	リンと老化	自治医科大学 分子病態治療研究センター 抗加齢医学研究部 教授 黒尾 誠 氏	115 名

さらに、協力関係にある『Jr Sr(ジュニア シニア)』とは、セミナーなどについて、お互い、それぞれ告知を行いました。

## 2. 組織運営面での活動

### (1) 第17期理事会（2022年5月23日開催）、第17期総会（2022年5月30日開催）

第17期理事会・総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、前回同様、書面表決としましたが、その際には電子メールによる電磁的方法で行いました。

理事会・総会において、それぞれ、2021年度の活動報告・決算報告、および2022年度の活動方針・予算案が提出され、承認されました。

総会終了後には、環境省事務次官（当時）・中井徳太郎氏による記念講演『健康で長寿な社会の実現のために、脱炭素は本当に出来るのか？』が行われました。

### (2) 運営委員会（ステアリング・コミッティ）（毎月、ZOOMによるリモート会議）

当機構の運営全般を検討する「運営委員会（ステアリング・コミッティ）」では、構成員（下表）のほか数名の会員の方々がオブザーバーとして加わりながら、自由な意見交換を行いました。

氏名	所属
珠玖 洋 理事長	三重大学 (大学院医学系研究科教授)
清水 昭 理事 (副理事長)	医療法人瑞穂会理事・川越リハビリテーション病院 (統括院長)
谷 憲三郎 理事 (TR研究局長)	東京大学 (定量生命科学研究所 特任教授)
阿川 清二 理事 (事務局長)	若松河田 行政書士事務所 (代表)
渡辺 賢治 理事	医療法人 修琴堂 大塚医院 (院長)
長野 隆 理事	株式会社 OP3 (代表取締役)
岩田 良輔 理事	株式会社 ブランシュ コンセイエ・デサンス (代表取締役)
中井 徳太郎 氏	日本製鉄株式会社 (顧問)
渡辺 泰司 氏	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (再生・細胞医療・遺伝子治療事業部長)
竹本 治 氏	ソーシャル・コモンズ (代表)

当委員会では、参加者がそれぞれアイデアを出し、実務を着実に進めることで、当機構が新たな業務運営方法を確立し、活動領域を広げるべく努めました。理事の企画・運営のセミナーやシンポジウムの企画に際しても、充実した内容になるよう、積極的に意見が交わされました。

当委員会の議事録は、理事との積極的な情報共有をはかるべく、理事全員にメールで送信しました。

## 3. 広報活動等

### (1) 広報活動

シンポジウム、各種セミナー、ミーティングを通じて、当機構に興味を示してくださった方はメーリング・リストに取り込み、その拡充を常にはかりました。また、開催したセミナーやシンポジウムなどについては、講演の概要や

関連資料を、ホームページ（HP）で公開しました。

なお、昨年度に引き続き、ホームページでは、各種セミナーやシンポジウムへの参加申込なども簡便にできるようにしています。また、オンラインによるセミナーやシンポジウム終了後は、次回セミナーの案内等の画面を用意するとともに、QRコードによってスマートフォンからも簡単にHPにアクセスできるように配慮しています。

このほか、関係団体を通じて、一般の方々にもセミナーなどの案内を配信してもらうよう、都度依頼しました。

## (2) 会員募集活動

2022年度も、オンライン開催となったセミナーについては、会場での会員募集活動はできませんでしたが、ハイブリッドで開催したシンポジウムの方では、関心のある来場者に連絡先（メールアドレス）をアンケートに記載いただくかたちで募集を行うことが出来ました。

また、昨年度と同様、セミナーやシンポジウムのオンライン配信の際には、最後に会員募集のメッセージを発信したり、また終了直後に会員募集等の画面を用意したりすることを通じて、積極的に募集活動を行いました。

このほか、第16回シンポジウムの演者で非会員の方には、当機構の推挙の下で、個人正会員として当機構にご参加いただくことを提案し、了承いただきました（2年度分は会費免除）。

	個人正会員	個人賛助会員	団体法人賛助会員
2014 年度末	87	—	10
2015 年度末	87	—	9
2016 年度末	81	—	8
2017 年度末	79	—	7
2018 年度末	77	15	7
2019 年度末	56	21	7
2020 年度末	60	21	7
2021 年度末	53	21	6
2022 年度末	56	12	4

以 上

## 第2号議案

### 2022 年度決算報告

#### 1. 決算概況

2022 年度も、関係各位のご尽力により、個人正会員及び賛助企業の多くが継続して会員登録をして下さいました。ただし、コロナ禍による経済の混乱などを踏まえ、一部賛助会員企業からの収入が一時的に減少するなどの影響がありました。最終的な会費収入は、昨年度を若干下回る約 123 万円となりました。この会費収入額は当初予算には満たないものではありませんが、厳しい経済情勢を踏まえると、やむを得ない結果であったと考えております。事業収入等・約 8.3 万円、および、当機構が過去積み上げてきた内部留保（純資産）約 475 万円等と合わせることで、年度内の活動を円滑に行うための必要額を十分賄うことができました。

また、3 月に開催されたシンポジウムに 1 団体（株式会社アインホールディングス）からのご協賛をいただきました。

今年度の収支のバランスについては、最終的には約 218 万円の赤字となりました。これは、コロナ禍の影響もあって会費収入が大幅に減少したことと、加えて対面イベントとのハイブリッド形式でシンポジウムを 2 日間開催したこと等による経費増大の影響と考えられます。

#### 2. 決算状況

2022 年度の具体的な決算表を次ページ以降に示します。

表：貸借対照表（期末時点の財産目録を兼ねる）

書式第11号（法第28条関係）

2022年度

会計貸借対照表

2023年 3月 31日現在

特定非営利活動法人健康医療開発機構

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	3,416,832		
流動資産合計		3,416,832	
2 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			3,416,832
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	43,000		
預り金	85,531		
未払金	714,885		
流動負債合計		843,416	
2 固定負債			
長期借入金	0		
固定負債合計		0	

負債合計			843,416
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		4,752,860	
当期正味財産増減額		▲ 2,179,444	
正味財産合計			2,573,416
負債及び正味財産合計			3,416,832

表：収支計算書

書式第12号（法第28条関係）

2022年度		特定非営利活動に係る事業		会計収支計算書	
2022年 4月 1日から 2023年 3月 31日まで					
特定非営利活動法人健康医療開発機構					
(単位：円)					
科目	金額				
(経常収支の部)					
I 経常収入の部					
1 会費・入会金収入					
入会金収入					
会費収入	1,227,000				
2 事業収入					
(1) 情報収集・提供事業収入	33,660				
(2) 政策提言事業収入	50,000				
(3) 研究・開発及び事業化の支援事業収入	0				
(4) 研究調査事業収入	0				
3 補助金等収入					
地方公共団体補助金収入	0				
民間助成金収入	0				
4 寄付金収入	0				
5 その他収入					
利息収入	41				
雑収入	0				
任意団体からの繰入金	0				
6 その他の事業会計からの繰入					
経常収入合計				1,310,701	
II 経常支出の部					
1 事業費					
(1) 情報収集・提供事業費	726,967				
(2) 政策提言事業費	1,322,576				
(3) 研究・開発及び事業化の支援事業費	0				
(4) 研究調査事業費	0				
2 管理費					
人件費	119,000				

会議費	0	
租税公課	0	
地代家賃	0	
事務機材費	3,025	
通信光熱費	0	
消耗品費	0	
通信運搬費	649,835	
印刷製本費	0	
広報関連費	13,860	
旅費交通費	0	
減価償却費	0	
雑費	37,818	
支払報酬	617,064	
支払利息	0	
経常支出合計		3,490,145
経常収支差額		▲ 2,179,444
III その他資金収入の部		
その他の資金収入合計		0
IV その他資金支出の部		
その他の資金支出合計		0
当期収支差額		▲ 2,179,444
前期繰越収支差額		4,752,860
次期繰越収支差額		2,573,416
(正味財産増減の部)		
V 正味財産増加の部		
1 資産増加額		
当期収支差額(再掲)	0	
2 負債減少額		
増加額合計	0	0
VI 正味財産減少の部		
1 資産減少額		
当期収支差額(再掲)(マイナスの場合)	1,423,528	

2 負債増加額	755,916	
減少額合計		2,179,444
当期正味財産増加額（又は減少額）		▲ 2,179,444
前期繰越正味財産額	4,752,860	0
当期正味財産合計		2,573,416

以上

## 第3号議案

### 役員の変更

以下の理事が退任いたします。

珠玖 洋理事（2022年9月4日死亡により）

武藤 徹一郎理事（2023年4月29日自己都合により）

安田 喜憲理事（2023年5月31日任期満了により）

以下の理事について新任いたします。

高橋 聡理事

竹本 治理事

中井 徳太郎理事

渡辺 泰司理事

以下の理事・監事について再任いたします。

阿川 清二理事、池田 康夫理事、今井 浩三理事、岩田 良輔理事、上田 龍三理事、小澤 敬也理事、河上 裕理事、齋藤 英彦理事、清水 昭理事、谷 憲三朗理事、玉田 耕治理事、長野 隆理事、宮野 悟理事、吉澤 保幸理事、渡辺 賢治理事

山本 裕監事、渡辺 一夫監事

なお、役員任期は定款の定めるところにより 2025年5月31日までとします。

#### 【定款】

第16条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員により就任した役員任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

## 第4号議案

### 2023年度活動方針案

#### I. 概 要

新型コロナウイルス感染症第八波は、収束の方向にありますが、未だ予断を許さない状況下にあります。そうしたなか、当機構としては、2020年度より積極的に展開してきた「オンライン形式での情報提供活動」と、「人と情報のネットワークづくり」にリアルな参加を併用した「ハイブリッド方式での活動」に本格的に踏み切ります。

(1) 健康・医療に関する情報提供とネットワークづくりの支援にかかる活動の柱として、ハイブリッド方式による『健康医療ネットワークセミナー』およびシンポジウムの開催を中心に、その他関連団体との連携・協力なども進めていきます。

また、そうした健康医療面に関する情報提供、そして、当機構の原点ともいえる「TR連携」を充実させていく上で、今年度も、当機構理事・会員にもそれぞれの知見、人的ネットワークなどを生かしたセミナーを随時企画・運営していきます。

(2) 組織運営・広報活動については、恒常的に広報活動を地道に行って、当機構の活動を共に行っていく仲間の数を増やしていくことに加え、当機構のモットーである会員相互の交流を深める機会も増やしてまいります。

皆さまの力をお借りし、ポスト新型コロナ禍にあっても、明るく得心のいく未来実現に向けて、有意義な活動を着実に進めてまいります。

## II. 具体的活動

### 1. セミナー等を通じた情報提供とネットワークづくり

#### (1) 健康医療ネットワークセミナー

概要で述べたように、新型コロナウイルス感染症の社会情勢等をみながら、ハイブリッド方式での開催を積極的に検討していく予定です。ただし、第16回シンポジウムで実施したハイブリッド形式のものよりは、簡易なかたちにする 것을想定しています。

##### ①通常セミナーおよび包括的方向性

健康医療ネットワークセミナーについては、様々なカテゴリーの人々との幅広いネットワークづくりを目的に運営します。テーマとしては、会員の要望（アンケート結果等）を踏まえて、医学研究そのものに限らず、幅広く取り扱いながら、できる限り「誰にでもわかりやすい」セミナーにすることを重視していきます。

開催頻度としては、およそ1~2カ月に1回のペース（1回あたりの参加人数は50~100人程度を想定）を予定しており、テーマや講演者によっては、他団体との共催の形で実施することも想定しています。

##### ②理事主導によるセミナー

今年度も引き続き、当機構理事の方々にそれぞれの専門領域の知見、人的ネットワークなどを生かしたセミナーを企画していただく予定です。具体的な実施方法については、企画・運営を担っていただく理事とも相談しながら、概ね下記のような要領で進めます。

##### 《セミナー実施要領》

テーマ：健康・医療に関連した分野（TR連携に資するものに限らない）

テーマの選定：当機構理事（以下、企画担当理事）からの発案を基本とするが、ステアリング・コミッティからも一部発案することも視野に入れる

開催回数・時間：1回2名程度（1名30~40分）×3回（企画担当理事自身を含む数名が交代で講師をつとめることを想定）、年間で2テーマ程度（計6回程度）扱う

司会進行：企画担当理事

形式：オンライン配信（配信は、首都圏外からも可）および上記①に準拠

その他：事務局は、参加者の募集、システム対応等を全面的にサポートする

上記コンテンツの充実に加え、オンラインによる情報提供の方法についても、一段と工夫を凝らしていくことで、当機構会員・一般の方の双方に対して、有意義な情報を提供しつつ討論を深める機会を増やしていきます。

《今後の予定》

回	開催日	セミナー名	講師
65	2023/7/8	谷憲三朗理事主導シリーズ（4回シリーズ） 「医療・ヘルスケアを変革するデジタル・テクノロジー」 第3回【患者さん（利用者）視点でのデジタルソリューションの開発】 講演1『認知症やうつ病などの診断に用いられるデバイスの開発』（仮） 講演2『認知症予防に関連するデジタルソリューションの検討』（仮）	慶應義塾大学医学部 ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座 特任教授 岸本 泰士郎 氏  国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター 予防老年学研究部 部長 島田 裕之 氏
66	2023/7/29	『知ってもらいたいグリーフケア』（仮）	グリーフ&ブリーブメント研究所 代表、臨床心理学博士/ Clinical Psychologist 森田 亜紀 氏

健康医療ネットワーク・セミナー（上記①、②）の事業に関わる収入としては、会費（会員外1名あたり1,000円）、また、支出としては、1回あたり講師に対する謝金30,000円、および別途規定による交通費の支払いを見込みます。なお、視聴者の参加受付については、2022年度同様、Peatixを通じて行う予定です。

## （2）シンポジウム（第17回）

シンポジウムについても、昨年度につづき、ハイブリッド形式での開催を検討していく予定です。

2023年9月頃までには、日程とあわせ、テーマを決定した上で、速やかに講演者の選定を開始します。シンポジウムのテーマや対象分野に関し、理事・会員からの積極的なご提案や助言を期待しています。

当事業に関する費用は当機構の事業費および協賛企業による協賛金で賄います。支出は、講師に対する謝金及び別途規定による交通費等の支払いと、開催運営費用、並びに、開催後の報告書等の作成送付費用を見込みます。

## （3）他組織との連携

協力関係にある『ものづくり生命文明機構』、『未病社会の診断技術研究会』、一般社団法人『Jr Sr(ジュニア シニア)』などとの連携をはかります（下表）。これら以外にも、当機構と目的を共有する様々な組織・団体との連携を推進し、オールジャパンの取組みを発展させていきます。

連携先	協力形態	具体例（予定）
ものづくり生命文明機構	相互協力 共同広報	活動への相互参加
未病社会の診断技術研究会	勉強会の共同開催、共同広報	未定 (勉強会開催費用の一部負担)
Jr Sr(ジュニア シニア)	相互協力 勉強会の共同開催	共同広報

この連携活動に関する収入は見込みません。

#### (4) 会員相互の交流に向けた検討

このほか、ハイブリッド方式でのセミナーの機会を利用して、会員相互の交流を深める方策などの検討も行っていきます。

## 2. 組織運営面での活動等

### (1) 運営委員会（ステアリング・コミッティ） 随時開催

当機構の運営全般を検討する「運営委員会（ステアリング・コミッティ）」では、構成員（下表）が、1ヶ月に1回程度（オブザーバーとして会員も参加）、日常的な運営、シンポジウムの内容、セミナーの企画などを検討していきます。当面は、オンラインによる開催を基本とします。

#### 【運営委員会構成員】

氏名	所属
清水 昭 理事 (副理事長)	医療法人瑞穂会理事・川越リハビリテーション病院 (統括院長)
谷 憲三郎 理事 (TR研究局長)	東京大学 (定量生命科学研究所 特任教授)
阿川 清二 理事 (事務局長)	若松河田 行政書士事務所 (代表)
渡辺 賢治 理事	医療法人 修琴堂 大塚医院 (院長)
長野 隆 理事	株式会社 OP3 (代表取締役)
岩田 良輔 理事	株式会社 ブランシュ コンセイエ・デサンス (代表取締役)
中井 徳太郎 氏	日本製鉄株式会社 (顧問)
渡辺 泰司 氏	
竹本 治 氏	ソーシャル・コモンズ (代表)

当活動に関する収入は見込みません。支出につきましては、旅費規程に基づく旅費支払いを見込みます。

## (2) 事務局運営体制

その他事務局の運営は、事務局長を核としながら、昨年度と同様の体制で行うことを考えています。基本的には有志によるボランティアによって行うものとしませんが、運営サポートスタッフは2名を予定しています。

## 3. 広報活動等

### (1) 広報活動

パンフレットを追加印刷するほか、セミナー、シンポジウム等における講演の概要や関連資料などを、関係者の了解の下、ホームページ（HP）上に一段と積極的に公開していくことも検討していきます。

また、関連メディアにおける記事掲載や、他の組織との共同広報を進めるとともに、オンラインセミナー等を開催した際には、休憩時や終了直後に画面で次回セミナー等の告知を行うなど、積極的な広報に努めていきます（下表）。

項目	対応	関連支出
パンフレット	追加印刷	・印刷代
ホームページ	積極的な情報発信	・維持管理担当者のアルバイト代 ・サーバー・レンタル費用
メディアを通じた 広報	講演者へのインタビュー記事 掲載	(予算上は見込まず)
他組織との連携	共同広報	(予算上は見込まず)
オンラインセミナー の活用	・休憩時、終了直後画面での告知 ・QRコードの活用（HP画面へのアクセス用）	

このほか、シンポジウム、各種セミナー、ミーティングを通じて、当機構に興味を示してくださった方はメーリング・リストに取り込み、その拡充をはかっていきます。

### (2) 会員募集活動

当機構を一段と発展させ、活動内容を一層多様にしていくため、正会員・賛助会員数の増加に引き続き注力するとともに、既存・新規のコミュニティや活動に関わる人の輪を拡げることにも努めていきます。特に、オンラインセミナー等を開催した際には、休憩時や終了直後に画面で会員募集等を積極的に行っていきま

す。

また、セミナーやシンポジウムの講師をお引き受けいただいた場合には、2年度分、個人正会員となることのできる特典を付与することを検討します。

なお、会費滞納を理由に会員資格を喪失された個人正会員・賛助会員の方々にも、改めて当機構の活動の趣旨を説明し、再び会員となっていただくよう働きかけていきます。

団体賛助会員を含めた会員数を増やすことについては、理事をはじめ、個々の会員、関係者の皆さまからのこれまで以上の積極的な支援を期待しています。

### (3) その他資金支援の受付

会費以外の形態による資金支援の受付方法を対外的にわかりやすく案内することで、幅広く財政面での支援を獲得することを目指します。

## 2023年度特定非営利活動にかかる事業収支予算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人健康医療開発機構

(単位：円)

科目	金額		
(経常収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入会金収入		2,000,000	
入会金収入	0		
会費収入	2,000,000		
2 事業収入		300,000	
(1) 情報収集・提供事業収入	100,000		
(2) 政策提言事業収入	200,000		
(3) 研究・開発及び事業化の支援事業収入	0		
(4) 研究調査事業収入	0		
3 補助金等収入		100,000	
地方公共団体補助金収入	100,000		
民間助成金収入	0		
4 寄附金収入		100,000	
	100,000		
5 その他収入			
利息収入	0		
		0	
経常収入合計			2,500,000
II 経常支出の部			
1 事業費		2,000,000	
(1) 情報収集・提供事業費	700,000		
(2) 政策提言事業費	1,300,000		
(3) 研究・開発及び事業化の支援事業費	0		
(4) 研究調査事業費	0		
2 管理費		1,500,000	
役員報酬	0		
人件費	200,000		
会議費	50,000		
租税公課	10,000		
事務機材費	100,000		

		光熱水費	0	
		地代家賃	0	
		消耗品費	50,000	
		通信運搬費	500,000	
		印刷製本費	0	
		広報関連費	20,000	
		旅費交通費	30,000	
		減価償却費	0	
		雑費	40,000	
		支払報酬	500,000	
		支払利息	0	
			0	
		経常支出合計		3,500,000
		経常収支差額		-1,000,000
Q2	Ⅲ	その他資金収入の部		
	1	固定資産売却収入		
		その他の資金収入合計		
	Ⅳ	その他資金支出の部		
	1	固定資産取得支出		
	2	その他の資金支出合計		
		当期収支差額		-1,000,000
		前期繰越収支差額		2,573,416
		次期繰越収支差額		1,573,416

会員状況 (2023 年 3 月末現在)

● 個人正会員 (敬称略)

阿川 清二	蔵元 康雄	姫野 信吉
秋山 修一	齋藤 英彦	日吉 和彦
池田 裕明	嶋澤 るみ子	松井 昭夫
池田 康夫	清水 昭	松田 孝
伊藤 昌夫	清水 良吉	三浦 玲子
井上 和明	白井 重隆	三浦 博美
井上 清成	杉村 正樹	三木 格
今井 浩三	染谷 一敏	宮野 悟
岩下 照房	染谷 光亨	宮原 慶裕
岩下 美幸	高鳥 登志郎	武藤 徹一郎
岩田 良輔	竹本 治	森田 寛
上田 龍三	谷 憲三朗	安田 喜憲
内海 正義	玉田 耕治	山本 裕
鶴殿 平一郎	中井 徳太郎	吉澤 保幸
奥村 康	中込 昌治	吉永 智光
小澤 敬也	長野 隆	渡辺 賢治
鎌田 志賀子	中村 匠太	渡辺 一夫
河上 裕	西川 博嘉	渡邊 泰司
河野 芳弘	浜野 雅彦	(計 56 名)

● 個人賛助会員 (敬称略)

市村 功	佐藤 恵里	湯地 晃一郎
小川 理子	塩入 重彰	吉羽 一
久野 美和子	出張 勝也	(計 12 名)
久保 田正男	芳賀 直行	
小長 洋子	深澤 賢治	

● 団体賛助会員

東日本旅客鉄道株式会社

株式会社アインホールディングス

シミックホールディングス株式会社

株式会社ブランシュ・コンセイエ・デサンス

(順不同 4 団体)